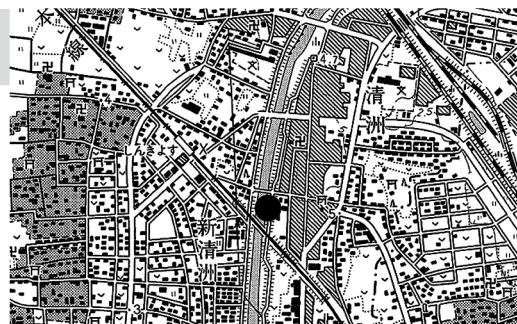


きよすじょうかまち
清洲城下町遺跡

所在地 西春日井郡清洲町地内
調査理由 五条川改修
調査期間 平成14年1月～2月
調査面積 1,000 m²
担当者 石黒立人・松田 訓・堀田剛史



調査地点 (1/2.5万「清洲」)

調査の経過 調査は五条川改修工事に伴う事前調査として、愛知県建設部河川課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成14年1月から2月にかけて実施した。調査面積は1,000 m²である。

立地と環境 清洲城下町遺跡は、尾張平野南部に町域を広げ、名古屋市西区に東で接する西春日井郡清洲町に所在する。遺跡は、五条川が岩倉市方面から南流した地点の両岸に位置し、河川の氾濫などによって堆積した沖積低地に立地する。調査地点の旧態は堤防及び畑地で、周辺は住宅地が広がる。現地表面高は、約3.0 mを測る。

調査の概要 調査地点の基本層序は、旧耕作土が0.2～0.3 m入り、その直下に旧堤防の客土が約0.8～0.9 m盛られており、この基盤と思われるにぶい黄褐色砂質シルト層が0.1～0.2 m認められた。さらにこの下に近世後期の遺物がわずかに含まれる灰黄褐色砂質シルト層が0.1～0.2 m堆積する。この灰黄褐色砂質シルト層までは遺構が認められず、この下に0.2～0.8 mの厚さでにぶい黄褐色シルトが堆積しており、この上部においてわずかながら遺構が検出された。このにぶい黄褐色シルトの下部では沈鉄が顕著であり、この下の基盤層は灰白色細粒砂であった。この層は一部が窪地状に落ちこんでおり、ここには褐灰色砂質シルト・にぶい黄橙色細粒砂等が堆積していた。

今回の調査で確認された遺構は、戦国時代のものと思われ溝が4条、土坑10基、不定型な掘り込み1基などである。

戦国時代の遺構では、主として溝・土坑が検出された。溝は、隣接する五条川に直交して東西方向に検出され、このうちの3条は検出面において溝の上端間の距離1 m内外、または切り合い関係を保って併走する。この東西に併走する3条の最も南の溝からは、土器、陶器、木製品等が出土している。土坑は調査区の中に散在して検出され、ほとんどのものが無遺物であった。

戦国時代の遺物では、土器皿、陶器皿、播鉢、木製部材、木製薄片（墨書入り含む）などが検出される。

(松田 訓)



調査区全景（北から）



作業風景（南西から）



SD01～03（東から）



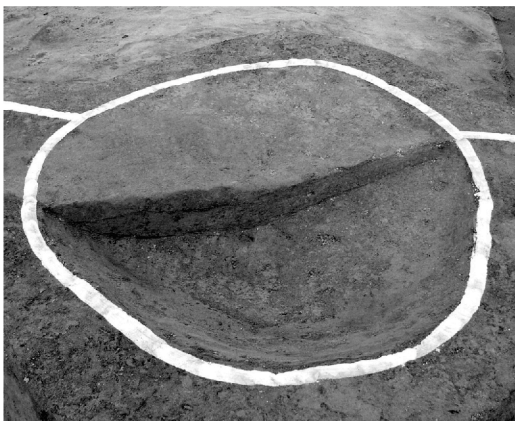
作業風景（東から）



SD03 遺物出土状況



文字資料出土状況



土坑断面



調査区全景（南から）